

栗駒山麓の自然に魅せられて

秋田県栗駒国定公園管理員 半田 克二郎

ただいま紹介にあずかりました半田です。プロフィールにありますように、いろんな場面で自然に関する活動をしております。生まれは大分県で、昭和55年に秋田に来ました。こちらに来たいきさつを話し始めますとそれだけで1時間もかかってしまいますので、とりあえずは拉致されてきたということにしておきます。

私が自然に魅せられたきっかけはキノコでした。東成瀬村にいる女房の父親がマタギの子孫でして、子供の頃から山菜やキノコを採って暮らしていたそうです。結婚する前にこの親父に連れられて山でキノコ採りをしました。これがきっかけです。

私の生まれた大分県と言うところは椎茸の栽培で有名なところでした。山のキノコも何種類かは利用していましたが、東成瀬村で食べられているキノコの種類の多さには非常にショックを受けました。生まれて初めて食べたサワモタシ、いわゆるナラタケや天然のナメコを山で見つけたときなど、いつのまにか山の魅力に、とりわけキノコに魅せられていったのです。

いろんなキノコの名を親父から教えてもらったのですが、利用していないキノコは皆ブスキノコと言うんですね。この食べれないキノコにも正しい名前があるんだ。そう思ってキノコの図鑑を買ってきて調べるようになりました。

当初は親父と山に行き、山菜やキノコを採ってくる非常に良い婿だと噂になったのですが、だんだん訳の分からないキノコを採ってきて食べたりするようになったものだから変わり者の婿ということになって、急激に評判を落としてしまいました。

そのうちに成田弘先生と言う、平鹿の果樹試験場を退職なさって西栗駒一帯の昆虫調査をしていた方から誘いがあって、一緒にやろうと言うことになりました。得たいの知れないキノコばかり採ってきて評判を落としていたのが、今度は虫捕りです。山に行っても金にならないと白い目でみられ大変困ったものです。ところが近年になって自然環境とか自然保護といったものに社会が非常に関心を持つようになって、こういう活動を続けてきた私の信頼も少し回復してきたのかなと思っております。その活動を通じて見てきた栗駒山麓一帯の素晴らしい自然の一端を、今日は少しお話ししたいなと思っております。

秋田県で「水と緑の条例」と言うのが出来ました。その選考委員に私になっていて、その時の話し合いの一部にこんなことがありました。秋田のいいところを聞くとほとんどの人たちが「豊かな自然」をあげます。それでは豊かな自然とはなんでしようかということです。緑が多いとか、水が豊富だとかそういう答えが返ってくるのですが、

本当に緑が多ければ自然が豊かだということなのではないでしょうか。植物や動物、あるいは昆虫の調査で山に入ると、自分の知らないところで恐ろしいことになっていることに気が付くのです。今日の演題は「栗駒の自然に魅せられて」と言うことになっているのですが、本当はそうじゃないのかも知れないと言う思いも片方にあるわけです。

こういう活動をしていると、いろんな自然に関する活動をやっている方達、いわゆる自然保護団体の方と話をすることがあります。素晴らしい方達がいる一方で、少し間違った捉え方で自然を見ている方達も存在します。極端な例で、たとえばアメリカにある団体で「木を切るな」ということを中心に活動をしているグループがあります。彼等は森の中に入り、ツリースパッキングといってチェーンソーを当てる部分に釘を打ち伐採を阻止することをやっています。実際にカナダではチェーンソーがはじき飛び怪我人が出たという話もあります。こういう怖い団体も存在するわけです。こんな捉え方で日本に持ちこまれたらとんでもないことになってしまいます。正しい自然に対する認識をもっと深く考えて子供達に伝えて行かなければなりません。

本当は自然のことに対する情報なんていうものは、昔は子供達が一番知っていたはずなんです。川の何処へ行けばどんな魚がいるとか、どの山のどの木にどんな虫がいるとか、山や川を舞台にして遊んでいた子供達が一番情報を持っていたはずなんです。ところがいつの頃からか子供達は山や川に誰も行かなくなってしまった。大人が行かせなくなったと言った方が正解かも知れません。私の住んでいる東成瀬村も山あり川ありの、絵に描いたような自然豊かなところなんです。夏休みになると都会にに出て行った人たちが子供を連れて帰郷してきます。村の真ん中に川が流れていて、都会の子供達は大はしゃぎで川遊びします。それを地元の子供達がうらやましように橋の上から見つめているというおかしな図が見えてくる。こんなおかしな事にした責任は我々大人にあるんです。豊かな自然の中においてそれを知っているエキスパートになるためには、子供は今の時期からその中で自由に遊んでいなければいけないのです。大人になってやろうとしても無理なのです。私が今、自然のことを少し詳しく大きな顔で活動しているのも、子供の頃にそういう風に遊んだという基礎体験があるからです。今の子供達にそれを望むのは無理です。我々大人がごく普通に認識している自然の知識すら子供達にはありません。何度かやった観察会でこんな事がありました。

雄勝郡内の小学生でしたが、大きなスギの林の中で、「この木は秋田県を代表する木ですから当然皆さんわかりますよね？」と聞くと、みんな「ブナ」と答えるのです。跡を見て「これは？」と聞くと「セロリ」と言う。これにはショックでした。ブナの実に至っては田舎の子供達が「ドリアン」みたいだと言うんです。「ドリアン」って一体なに？こっちが知らないんですよそんなもの。そういう風にしか捉えることの出来ない子供達にかなりショックを受けました。

子供達が自然の中でもっと自由に遊べる環境を作ってやらないと、この流れは止めら

れないような気がします。虫やカエルといったものは昔から子供達のよい遊び相手でした。ところが今は、興味のある虫はデパートで売っているクワガタやカブトムシくらいです。先日も都会の子供達に昆虫採取をさせるツアーを、あるホテルが企画してその講師を頼まれたのですが、野生のクワガタやカブトムシを見つけて感激するのですが、その後「このクワガタはいくらする？」と聞くのですよ。子供達がそれぞれ捕ってきた昆虫をどちらの方が高いか私に聞いてくる。そういう価値観なのです。そういう風にしか自然を見ていない。中にはやたらと昆虫が好きでかなりの種類を知っている子供がいました。しかしあくまでそれは図鑑の中だけの話で実際に触ったことがない。トンボも蝶々もその子は触れませんでした。

何だか非常に怖い話ばかりになってしまいましたが、我々大人が子供達にキチンとしたことを伝えるためには、自然の現状を知らなければなりません。特にここにお集まりの皆様は、いろんな場面で自然とお付き合いをすることが多いわけですから。自然の豊富な田舎の中でさえ既に危険なことが起きつつあるということを映像を見ながらお話ししたいと思います。裏話をしますと実は芋虫とかヘビとかそういうものを今回たくさん用意していたのですが、関係者に不評を買ってしまいまして、急遽植物を主体に変更しました。それでは始めます。

これはコマクサです。私が活動している栗駒国定公園にはコマクサはありません。しかし、ある自然保護団体が栗駒は「駒」の字がつくのに高山植物の女王と呼ばれるコマクサがないのはおかしい、と数年前に植えたそうです。この自然保護団体は今でも活躍しています。なければ植えれば良いという考えは怖いものです。同じようなことが川でも普通に存在します。今、どこでも釣り、特に溪流釣りのブームです。イワナやヤマメがたくさん釣れる川は豊かな自然がある、という風に言いますが、釣りの対象になるそういう魚は、漁業協同組合が稚魚を毎年、何千何万と放流しているのであって、その数が多いほど魚も多いわけですから。漁協の管理していない魚、つまり、シマドジョウとかタナゴ、カジカ、そういう魚がきちんと住み分けしながら毎年順序よく繰り返し生まれているかが問題なのですが、そんなことはほとんど漁協は調べていません。中には随分と数を減らした魚もいるのですが……。これでは本当に豊かな川の指標にはならないわけですから。

ホタルもそうです。一時期、ホタルが激減してあちこちで復活させようと放しました。ゲンジボタルの光の点滅は、西日本と東日本では秒数が違います。西では2秒に1回、東では4秒に1回光ります。ところが西のホタルをむやみに東北に放したせいで、3秒ホタルというのが出来てしまった。嘘のような本当の話です。単にいなければ放せば良いという短絡的な考えの弊害です。

秋田県にも同じようなことがありました。日本の鈴虫の北限は五城目町だったそうですが、今はもういないそうです。普通の鈴虫を放したおかげで、在来の鈴虫が駆逐され

てしまったそうです。何でもいけばよいということではないのです。

次は栗駒に咲く花たちを紹介します。豊かな自然がある傍ら一方ではそれを持ち帰ったり売ったりする行為も後を絶ちません。昔はサラサドウダンやナナカマドといった木がよく被害にあったようですが、今はそういう大規模な盗掘はありません。

一番の被害はラン科の植物のようです。今は野草のブームでもあります。楽しい園芸だとか簡単な野草の育て方、などと言った本やテレビ番組が数多くあります。ある意味「皆さんも野草を採ってきて育てましょう」と言っているようなものですから、しょうがないのでしょうけれども……

これはカキランです。これも盗掘によくあいます。10年ほど前に比べると数も随分と減ってきました。

これはサワランです。これもよく盗られます。栗駒の登山道沿いに咲いているのはほとんど見なくなりました。派手できれいなものですからよく目立ちます。

これはトキソウ。サワランと同じ時期に同じ条件のところに咲きます。これは標高の低い湿地にもあります。そういう所では採り放題になっていて消滅してしまった箇所もあります。非常に人気のある花です。

これはオノエランです。これも人気のある花で、千メートル地帯の温泉場あたりではまるっきり見かけなくなりました。幸い頂上部の高い所には残っております。

これはハクサンチドリです。踏みつけられるような所にも咲く強い花なのですが、これも数を減らしております。

これはこういう場所では初公開なんです、ヤチツツジと言います。北海道が南限の植物なのですが、栗駒に存在してしまして植物学者の間で物議をかもしだしているそうです。実際に見ると非常に地味な植物です。

これはカタクリです。昆虫の中にはある特定の植物に依存して生きているものがたくさんおります。つまりその植物がなくなると昆虫も姿を消してしまいます。

これはヒメギフチョウです。この蝶々はカタクリがないと生きていけません。非常に原始的な蝶々で生きた化石だなどといわれます。幼虫はカタクリの林にあるウスバサイシンという葉っぱをたべます。春になって羽化すると目の前のカタクリの密を吸って生きてゆきます。そしてまたウスバサイシンの葉の裏に卵を産み付けます。カタクリとウスバサイシン、この二つがセットでないと存在できない蝶々です。この蝶々も絶滅するんじゃないかと言われているんです。カタクリとかウスバサイシンの有無よりも、我々も採集をして調べているのですが、いわゆる処女雌といえますか雄と交尾をした雌を見つけるのが非常に難しいんです。何故かといいますと、雌の方が圧倒的に数が少ないものですから、雌が羽化して出てくるとすぐ交尾してしまうんです。交尾したときに次の雄が交尾できないように交尾器官の所に膜を掛けてしまうんですね。ですからその雄が強い遺伝子を持った雄だったらいいんですが、そうじゃないと弱くなってしまうんです。

そういう原始的な繁殖の繰り返しをしているものですから、いずれいなくなってしまうんじゃないかと言う学者もいるようです。

これが卵です。先ほどのウスバサイシンの葉っぱの裏にこれだけの卵を産みます。そこから小さなイモムシが出てきてウスバサイシンの葉っぱを食べて、また地中に深く潜っていくということになります。

これは福寿草です。福寿草も東成瀬の田舎に行くと何処にでも咲いています。秋田県は何処にでもあるんじゃないかと言う気がするんですが、これも野生種はほとんど無いんですね。環境省が出しているレッドデータブックの中に載っています。全部家に持って帰っちゃうものですから野生のものが存在なくなっています。普通にあるものがいつの間にか無くなってしまうということで、非常に危惧されます。多分、県内でもあちこち残っているところはあるんでしょうけれども。

秋田県にはごく普通にあっても、隣の県に行くと無くなってしまったものがたくさんあります。近頃、私も知ったのですがイモリがおります。皆さん知っていると思いますが、日本アカハライモリです。イモリはどこにでもいると思っているでしょうけれども、実は宮城県の仙台近辺では絶滅したそうです。宅地造成等で沼やなんかを潰してしまうので、非常な勢いでいなくなってしまった。宮城県でのレッドデータブックの中では要注意に入ってます、次回、何年か後に出す時にはイモリが、レッドデータブックに載るんじゃないかと言われていています。私達の足元にあるごく普通な自然がそれだけ不安定になっているんだという思いがあります。イモリのことをもう少し話しますとイモリは北海道におりません。世界中の北限が日本です。英語でサラマンダと言いますが世界中の北限が日本で、本州には日本アカハライモリしかおりません。琉球に行くとまた別のヤツがいるんですが、世界中の北限がこの東北になります。そう思うとちょっと愛おしくなるなあという気はします。ただ、毒を出します。テトロドトキシシンというフグ毒と同じような毒を出すそうです。子供達によく触らせるんですが、生で口の中に入れたりしないように、それだけ気をつければ別に大丈夫だと思います。ちょっと余談になりましたけれども。

これがシラネアオイです。これも人気のある花です。私も里の方で盗掘されているところを見たことがあるんですが、新潟県の方が堂々と言ってましたね。一株、新潟に持って行けば3000円で売れると話をしていました。日本一属一種、世界中にこの種は日本にしかないシラネアオイです。これも里山から高山帯にかけて有るんですけども、確かに少なくなってます。東成瀬の方でもひどい人がいて、この植物が10本ぐらい咲いているのを土ごと持ってきて家の前で売っている人を見たことがあります。それだけ簡単に盗ってきて処理されてしまうというか、そういう対象の花です。

これが白のシラネアオイです。写真に撮って、もうちょっと花がきれいに咲いた頃にもう1回撮りに行こうと思っていたんですが、2~3日後に行ったら無かったですね。

跡形もなく消えていました。

これはダイモンジソウです。先ほどお話ししましたが、いわゆる野草ブームでかなり盗掘される一つです。そんなに珍しい花ではないのですけれども、花の形が「大」の字に似ているので大文字草と言うんですが、人間の入りやすい道路が出来て、そういう近くにたくさんあった群落が、1年後には無くなっていたという場所もたくさんあります。

これはヤマジノホトトギスで本当のホトトギスではないです。これも人気のある植物で、今は、もうほとんど無くなってしまいました。野草家さんの話によると、自分で採りに行かないで他人に採らせておいて、採ってきたら買ってやると言うシステムらしいです。そうしないと足が付くというんでしょうか、自分では手を汚さないで随分売買されているようです。これもどちらかという山岳よりも普通の里山に生育しています。

これはクリンソウです。宮城県から植物の調査に来た方達と一緒に私も行動したことがあるのですが、その時にたまたまこの花の話が出たので、有りますと言うことで野生のものを見に連れて行った時、その方は50歳ぐらいの方でしたけれども、野生のクリンソウは30年ぶりに見たという話をしておりました。サクラソウの仲間なんですが、これも随分盗られております。野生のものはほとんど無くなった花の一つです。

これはクマヤナギです。トズラと田舎の人達はいいますけれども。秋田市の方が家に来て、この辺にトズラの実はありませんか？。私も子供の頃見たきり見てないんで是非見たいと言うことで、訪ねてこられたんです。これもなくなっていますね。木の実は黒く非常に甘くなっておいしいんです。大木にならない小さな木ですから、一番最初に処理されてしまい無くなっていきます。

これはタンポポで、日本タンポポです。昨年春に東成瀬の学校から依頼があつて、子供達にタンポポの授業をやるんで話をしてもらえませんかということで、私、行ったことがあるんです。小学校の2年生だか3年生の授業だと思います。何故、私にそんなことを言うのかなと思ったんですが、時々タンポポ採ってきて根っこ食べたりしているもんですから、この人だったら変なこと知っているんじゃないかということで依頼を受けたんだと思うんです。教科書を見て驚いたのはですね、今の小学校の教科書に出てくるタンポポ、全部西洋タンポポなんですね。西洋タンポポから西洋蜜蜂が蜜を吸っている写真が載っているんですよ、全部。何処を見ても日本タンポポが載っていないんです。これには私、ショックでしたね。確かにそれが正しい日本の風景かも知れませんが、せめてどこかに日本タンポポとか、和蜂の写真のカットとかの説明があってもいいんじゃないかと思うんですけれども、一切無いんです。

これは西洋タンポポで、萼辺がひっくり返っています。日本タンポポは探せばまだ何カ所かはあります。確かに少ないですけれども山奥の隠場みたいなところがあつて、ほとんど車の入らないような所なんかには、日本タンポポは少しは残っているようです。

よく子供達に、こっちが日本タンポポでこちらは西洋タンポポなんて話をするんです

けれども、日本に元々あった風景の中の、花とか虫といったことをキチンと次の子供達に伝えていかないとだめですね。まあ教える先生が知らないんですからしょうがないと言えばしょうがないでしょうけれども。まだまだ秋田には日本タンポポ探せばたくさんあります。どういうところに分布しているか、地図を作っておいた方がいいのかなという思いでおります。

これは湯沢の山田というところなんですが、山田の駐車場、公民館の前でその一角だけに日本タンポポがあるんです。全部西洋タンポポなんですけどここだけに残っているんです。日本タンポポは春に1回咲いて終わりですから、1年中咲いているのは全部西洋タンポポです。そんなことを教えながら子供達と接してもらった方がいいのかなと思います。

少し虫の話をします。これはハッチョウトンボです。体長が17ミリから18ミリぐらいですから1円玉と同じぐらいのサイズのトンボです。これももう全国的に言うと激滅しているトンボです。日本では勿論1番小さいのですが、世界でも最小種にはなります。もっと小ぢいのは糸トンボの仲間にいるそうですけれども。赤い方は雄ですね。大体昆虫は雄の方が派手です。鳥なんかもそうですけども雌は地味です。このトンボも今、見つかる結構ニュースソースになるんで、あっちこっちで見つかりましたと言うと、町とか村で保護するんです。

私の知っている話では、岩手県の沢内村というところで、今から15・6年くらい前ハッチョウトンボ見つかったって新聞に載ったんです。全国からそのハッチョウトンボを採りに来て全部採って行って、挙げ句の果てにですねトンボ採った後に土まで採取して行ったんですよ。一晩のうちに沼そのものが無くなったって言うことがあるんです。それだけそういうマニアっていうのがいますんでね。小さいですからあまり飛べないトンボなんです。ブンブンとそこらに飛んでいるので、その環境が無くなってしまうと後は異動できないんです。ですからもう全国的に激滅している。秋田県内でも何カ所か本当に数えるしかないと思うんですけれども、これがたくさん住める日本にしたいなあという思いがあります。

日本のことを昔、安芸津国と言ったんですね。安芸津の島とか、安芸津というのはトンボの古語です。県南の方のおじいさん、おばあさんは今でもトンボのことをアケジなんて言ったりします。それが本当のトンボの島だという意味です。トンボがたくさんいたんで安芸津国というふうな。広島県の安芸の宮島の安芸、あれもトンボのことを指したそうです。日本はそれだけトンボの多い国です。

これが雌です。雌はこういう色をしています。この写真はアップで撮っているのですがわかりますが、実際に自然の中で見ると雌の方が地味なのでよくわかりません。雄の真っ赤なので非常に目立つのですが、雌は地味でパッと見ればアブか蜂が飛んでいるような感覚ですね。

子供達は生き物の方に興味有ります。トンボでもイモムシでも、そういう物に非常に興味を示します。昨年春に同じ小学校の4年生を対象に野外授業の依頼を受けましたので連れて行ったことがあります。先生にいろいろ注文をつけられると私、嫌なもんですから、例えば1時間なら1時間、1時間半なら1時間半をそっくり私に下さいと、そうすれば子供達を山に連れて行って遊ばせますからと。女性の先生でしたが、生きものが苦手によく解らないんで是非お願いしますということで連れて行ったんです。何でもよいから探してこいと。こいつは不思議だな、おかしいなと思うのがあったらそれを皆で見ようということで、そういう授業をやっていたんです。その中の一人が蛇を見つけたんですね。蛇だと言うんで行って見たらシマヘビだったんです。春先だったんで動きも鈍くあまり動かなかった。シマヘビは安全な蛇だから、触ってもいいんですかと言うんで触ってもいいよと言ったんです。まさか本当に触ることはないだろうと思って軽く返事をしたんですけれども、その中の一人の子が何を思ったかそれを掴んだんですね、掴んで持ち上げたんです。その子が掴んだのを見たら、今度一斉に他の子供達が全部、私にも触らせると、ブワーと固まって女の子もみんなに触らせて見たんです。ちょっと異様な光景でした。今の子供、平気でこのくらい蛇に触ればいいなと思って、先生にこの子供達の将来は明るいですよと後ろ振り向いたら、先生が固まってしまっていて、それから2度と依頼が来なくなりました。まずいことをしてしまったかなと思っています。とにかく子供ってのは無防備ですから、触ってもよいとか悪いと言えど素直に応じます。それを駄目だなんて押さえるのは大人なんですね。大人が勝手に自分の物差しで押さえたりします。勿論、危険なマムシだとかそういう物に触っちゃ駄目でしょうけども。そういうことだけをフォローすればいいんであって、少々物は触ったり、刺されたりかゆくなったりする程度はいいんじゃないかと私は思っております。その方が子供達は覚えるんですね。

最後の映像なんですけどこれはブラックバスです。2年ぐらい前ブラックバスのシンポジウムがあって私も聞きに行ったんです。確か弘前大学の先生でしたか、下北のブラックバスの被害を調べている時に、そこの沼にはもう今、ブラックバスがいらないんだそうですよ。子供達は沼にはブラックバスがいると思っているらしいんです。その子供達の前風景というのはブラックバスなんです。今、ブラックバスは困った問題だと我々苦労していますけれども、今の子供達は大きくなったら、我々子供の頃のブラックバスいなくなってしまうと、またブラックバス放すんじゃないかと言うんですよ。

羽後町には沢山の灌漑用の沼、ため池があるんですが、その地域の土地改良区の人達と一緒に沼を干して魚の駆除をここ2~3年やっております。もうブラックバスだらけです。タナゴだとか鮒、鯉、ナマズもでかいのがいっぱいいるんです。それこそ60cm、70cmクラスのやつがいるんですが小さいのはいないんです。ブラックバスは小さい物から大きな物まで全部揃っているんです。大きい魚は喰えないから大きな物だけ残って

小さい魚は全然いないんです。すごかったですよ。そこの沼は5・6年前にも1回干してブラックバスを退治したらしいんですが、5・6年経ったとき既にブラックバスだらけなんですね。

さっきの西洋タンポポの話じゃないんですが、ブラックバスでもそうなんです。秋田は非常に豊かな自然、豊かな環境があるというんですが、実際に覗いてみるととんでもないことになっていることが一杯あるわけです。社会的にもこのブラックバス問題なんてのはまだ決着の着いてない部分があるんです。釣り人の意見とかいろんなのがあって、経済的なことも言ってます。そうじゃなくて、やはりあってはいけない物、日本の風景に合わない物、元々存在し得ない物、それでなくても帰化植物やなんかでいろんな物がどんどん入り込んできて在来の物が脅かされているんですから。

秋田には秋田にしかない物、自然、環境こういう物をキチンと今の我々大人が責任を持って残し、正式な形で次の子供達に引き渡さないでどうするんだという気がするんです。是非、山とか自然に関係のある方達が声を大にして欲しいものです。

私も自分の親父に話をするんですが、そんなこと知ったことかみたいな感じですね、それよりきのご採りが忙しいと全然相手にしてもらえませんが、せめてここに臨席なさっている方々は、ある部分、高い位置でものを見ていろんな方達に社会的に影響を与えていくためにも声を大にして、秋田の自然を正常な形で次の世代に引き継ごうとお話をしたいなと常々思っています。

私が見てきたのはまだまだ本当の二十何年かの短い間で、活動範囲も狭いんですが、それでもいろいろ変化しています。そうでなくても、いわゆる地球規模で気温が高くなったり、酸性雨とかいろんな部分で変わることもあるんでしょうけれども、それはそれとして、人工的に変えてしまった物っていうのは人間の責任、我々大人の責任だと思うんです。大人が責任をとらないで誰がとるのかと。子供達に責任転嫁をしちゃいけないと思うんです。是非そういう思いで自然とお付き合いしていただければいいんじゃないかと思います。

一時間ダラダラくだらない話をしてしまいましたけれども、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

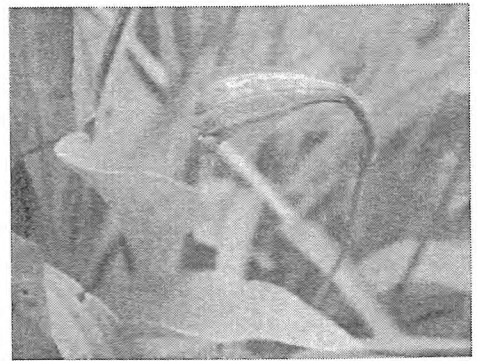
栗駒山麓の自然



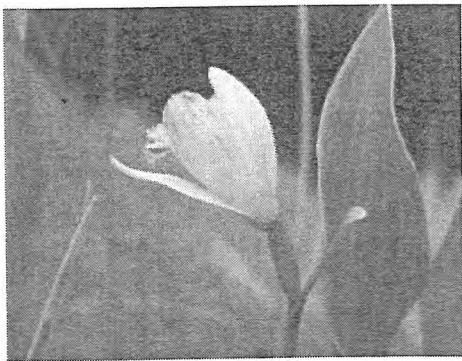
コマクサ



カキラン



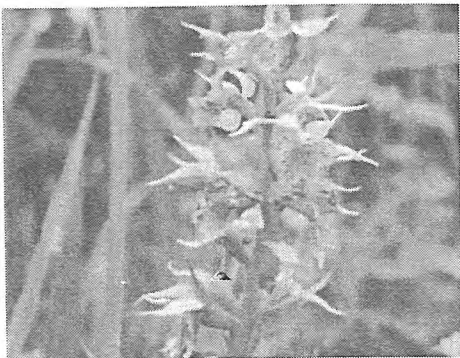
サワラン



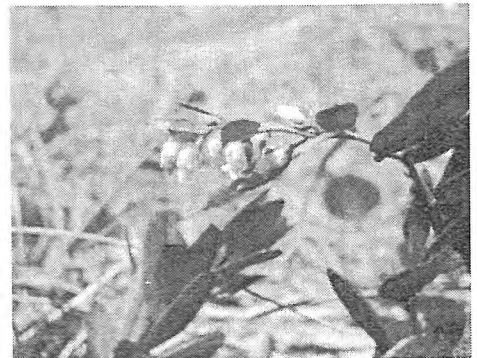
トキシウ



オノエラン



ハクサンチドリ

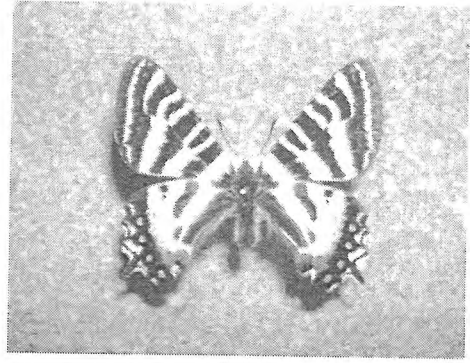


ヤチツツジ

栗駒山麓の自然



カタクリ



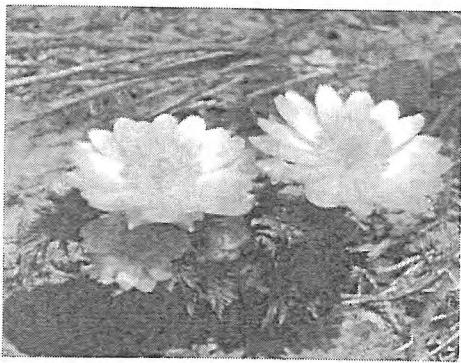
ヒメギフチョウ



ウスバサイシン



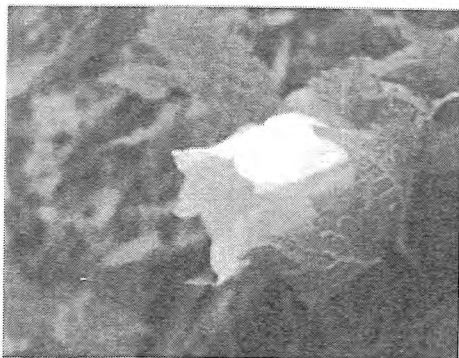
ヒメギフチョウの卵



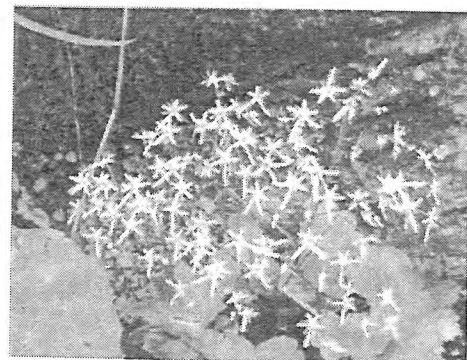
フクジュソウ



シラネアオイ

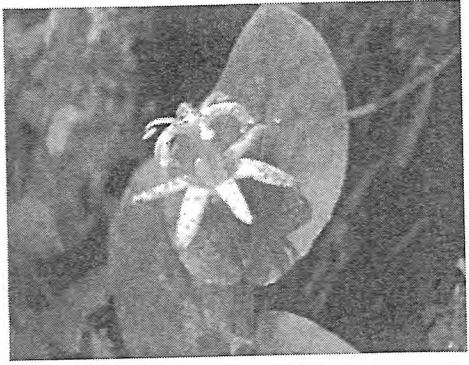


シラネアオイ (白)



ダイモンジソウ

栗駒山麓の自然



ヤマジノホトトギス



クリンソウ



クマヤナギ



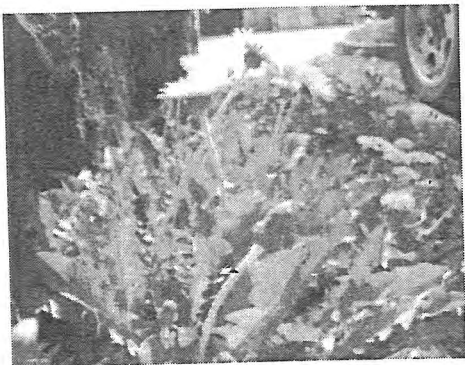
日本タンポポ



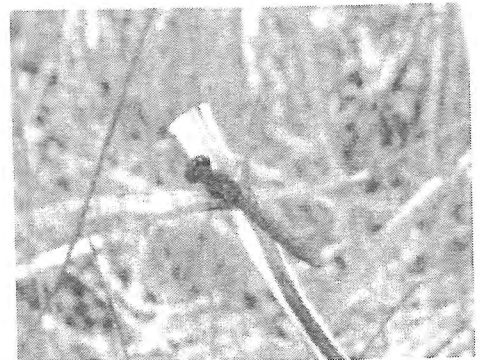
西洋タンポポ



西洋タンポポ 日本タンポポ

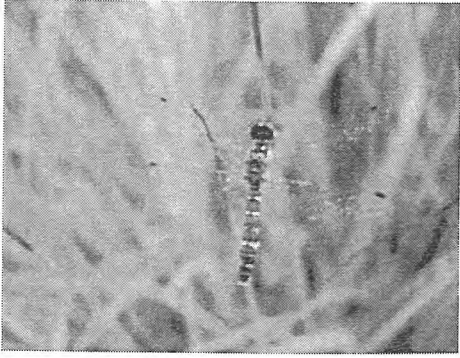


日本タンポポ



八丁トンプオ (雄)

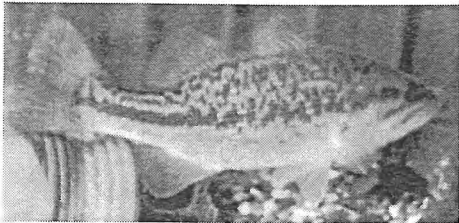
栗駒山麓の自然



ハ丁トンボ (雌)



ハ丁トンボ (雄)



ブラックバス